

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 7 回 中山間地域医療検討会		
事務局 (担当課)		医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)		
開催日時		令和 7 年 1 0 月 7 日 (火) 1 9 時 0 0 分～2 0 時 3 0 分		
開催場所		ウェブ開催 及び 津久井総合事務所 3 階会議室		
出席者	委 員	1 4 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	9 人 (医療政策担当部長(兼)医療政策課長、 津久井高齢・障害者相談課長、地域医療対策室長、 在宅医療・介護連携支援センター所長 他 5 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 基本方針に基づく取組について (2) 医療と介護の連携について 4 情報共有 ・ 藤野地区診療所再整備基本計画案について (資料 3) ・ 訪問型オンライン診療について (資料 4) 5 その他 ・ 乗合タクシーの実証運行について 6 閉会		

議 事 の 要 旨

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 基本方針に基づく取組について

事務局より資料に基づき、説明した。

(青山会長)

基本方針毎にご意見、ご質問をいただきたい。

【基本方針①】

(関戸委員)

このロジックモデルの最終の目標は令和8年度ということか。

(事務局)

指標は目安として令和8年としているが、少なくとも令和10年までは基本方針に沿った取り組みができているか確認していく。

(黒沢委員)

医療と介護の橋渡し機能の検討の指標について、令和8年の目標値が6ptとなっているが、根拠は何か。

(事務局)

高齢者福祉計画の第9期で表記されており、介護職員等に対する就労意識調査の中の「医療従事者との連携のしやすさに関するアンケート結果」を基にしており、市として平均点は超えたいという中で、6ptと定めたところである。

また現在、第9期の計画期間中であり、第10期の計画を作る際には、またアンケートを行うと思うので、その推移を見ていきたいと思っている。

【基本方針②】

(石井委員)

通院手段の維持確保の取り組みについて、診療所の統廃合により通院が困難な人が生じてくる。神奈中バスも減便しており、患者が通える体制を作ることが重要である。乗合タクシーは全ての地域をカバーできていないため、病院間を結ぶ循環バスの運行を市にお願いしたい。この取組については進んでいないと感じている。

(事務局)

乗合タクシーの実証運行については、1年半かけて実施していく。また、いただいたご意見等は関係部署に共有し、協議・検討を行っていく。

(石橋委員)

通院手段の維持確保の指標は検討会委員の所感を参考にするとなっているが、最終アウトカムの指標にしてしまうのは責任が重いし、バランスが悪いと感じる、幅広い意見を求めるようにした方がよいと考える。

(事務局)

委員の所感を参考にするとしているが、乗合タクシーの実証事業中に行うアンケートなどで実証事業の評価を行う予定のため、そういった情報も共有して、意見交換する中で評価いただきたいと考えている。

(原田委員)

通院手段は、診療所の通院が議論のメインとなっていると思うが、藤野や相模湖では、東京医大八王子医療センターや東海大学八王子病院に通っている方もいるため、駅までの交通手段も重要。

また、歯科に関しても、通院回数が多く、乗合タクシーの料金が負担になってくる。診療所までの交通手段だけでなく、広い視野での検討が必要と考える。

(事務局)

乗合タクシーの料金については、実証を通じて評価されると思うが、担当課にも伝えていく。検討会では通院手段としているが、市交通政策課においては生活全般の移動手段として考えている。乗合タクシーについては既存のバス路線のルートはカバーされていると認識している。また、観光や通学については、別途各所管で検討をしているところ。

【基本方針③】

(石井委員)

介護予防の取り組み、高齢者の社会参加については、社協を通じ百歳体操等を実施している。

サロン活動については地域の方が集まって情報交換することで、閉じこもりの高齢者のサポートに繋がっており大事な取組である。

こういった場を歩ける距離ということを意識して設定しているので、その場に来るだけでも高齢者には適度な運動となり、大切な取組である。また、地域包括支援センターでは認知症カフェも実施しており、この取り組みは進んでいると感じている。

(関戸委員)

けんこう号について、津久井から3キロ圏内の移動という規制があるが、3キロ規制をもう少し緩和してほしい。

(黒沢委員)

百歳体操は行きたいけれどあきらめている人もいると思うので、送迎の部分でデイスサービスの空き車両を活用するような計画を考えているのか伺いたい。

(事務局)

個々の取り組みについては、各エリアで様々な対策が取られていると思うが、デ
イサービス車の活用については、移動支援策の確保で検討したい。

(金子(惇)委員)

介護予防のアウトカムを何にするのかということだが、介護の基本チェック リ
ストから将来の要支援、要介護になるリスクを点数化し、推定することができるも
のがあり、多くの自治体でも使われていたりするので、数字で管理することができる
ので、そういったものを目安にしてもよいと思う。

(2) 医療と介護の連携について

事務局より資料に基づき、説明した。

(石井委員)

定期巡回・臨時対応型訪問介護看護について、まだあまり知られていない。ただ、
24時間対応というのは、人材が確保できている大きな福祉施設だから出来るもの
だと感じている。そのため、人材が確保されている他の大きな福祉施設にも制度を
周知していくとよいと思う。

(森田(亮)委員)

入院に時間を要しているとの意見が出ているようだが、ニュース等で報道されて
いるように、中小病院は厳しい状況である。病床を87～90%を埋めていかないと
厳しい状況であり、緑区の患者だけでは足りず、八王子や町田の病院にも入院患
者の紹介をお願いしているところ。

人材の確保についても、人件費の高騰で病床を埋めておかないと病院の機能を維
持できないような状態になってきているのが現状である。

包括支援センターからの意見では入院先を確保するのに時間を要しているとの
意見があるが、病院としては地域の患者だけで病床をうまく回せるのが一番だと考
えているので、病院とケアマネがうまく連携できれば良いと感じている。

緑区の患者は透析が必要など病院のスペックを超える場合以外は、積極的に受け
入れるようにしているので、もしかかりつけでなくても、連絡いただければと思う。

(土肥委員)

内郷診療所では、入院が必要な方は100%スムーズに森田病院や日赤等に受け
入れてもらっており、大変助かっている。今回の資料に書かれている内容が自分の
肌感覚と異なるので発言した。

(事務局)

土肥先生はご自身で様々なことを行って、入院の調整であったり、全てをやって
いただっており、非常に助かっているところ。

ただ、特に新しく開設した介護事業所を回っていくと、やはり連携の部分であまりうまくいってないという感覚を受ける。

中山間地域で新しい事業所が入りやすくするためにも、こういった橋渡し機能を医療機関に持っておくことは将来にわたり必要なことだと考えている。

土肥先生や石橋先生、原田先生は熱心に取り組んでいただいていることは重々承知しているが、中山間地域の課題として上野原や八王子といった市外とも調整しなくてはいけなく、旧市とは状況が異なるのと、事業所が少なく、人材も少ないというのがこの地域の特徴なので、自らできることはやっていただくが、出来ない部分を橋渡し役が担うという形で進めていきたいと考えている。

4 情報共有

・藤野地区診療所再整備基本計画案について

事務局より資料に基づき、説明した。

(石橋委員)

20年くらい前は藤野診療所の2階に医師用の住居があって、そこに医師が住んでいたが、最近は赴任してくる医師は皆、住み込みはしていない状況である。

理由を聞いたところ、給湯器が壊れている等の些細なことを言っていたと記憶している。地域としては、医師が住んでくれているという安心感は非常に大きいため、医師の住居がどのようなになっているのかを知りたい。

また、藤野診療所は内科、外科、小児科を標榜しているが、赴任してくる医師によってそこが変わらないようにしてもらいたいと考えている。

もう一点、在宅療養支援診療所として施設基準を通すのかということも早めに教えてもらえるとありがたい。24時間365日対応してくれる診療所ができるということは非常にありがたいことである。それが難しいのであれば、地域の医療資源で何か協力することで施設基準を通すことができないかということも一緒に考えていきたい。

(事務局)

まず住むということについてですが、これまでは診療所は単独の施設であったため、2階部分を居住できる施設としてきたが、今回、様々検討した中で、総合事務所の1階部分に入ることとなったため、物理的な問題が一つある。また、現在、医師の確保については、北里大学の医学部の学生に対する修学資金貸付制度等により実施しており、勤務地は市が指定する医療機関としているが、居住地までは指定していない状況であることから、整備はしないこととしている。

ただ、給湯器の故障などの設備面については、問題がないよう対応して参りたい。
次に、診療科目についてですが、修学医師に関しては、総合的な診療能力を有す

る医師を育てるというところで取り組んでおり、総合診療科か内科を原則基本とし、地域における多くの患者をカバーできるように取り組んでいる。その他に、小児科と外科についても診療科目を広げたところ。

また、研修期間中に小児や救急も対応できるように研修を受け、医師によって多少の差はあるかもしれないが、診療科目としては一定のレベルを保てるように取り組み、総合的に初診の患者は診れる体制を作っているところ。

最後に在宅支援診療所の施設基準についてですが、現在の市立3診療所については施設基準を取っているところである。統合後についても、維持していきたいと考えているが、1人の医師で24時間365日対応する難しさは、現在勤務する医師等から意見として出ているため、指定管理者となる医療機関等との連携によってカバーできるように意見交換や検討をしているところ。

(青山会長)

今回の基本計画案についての意見は診療所以外では募集していないのか。

(事務局)

診療所の利用者の意見が一番身近なところと考えており、診療所で意見募集を行っているが、その他、地域の意見を集約するために、自治会連合会やまちづくり会議、民生委員児童委員協議会や地域づくり部会などでも説明を行う予定である。また、医療政策課地域医療対策室においてもご意見は承ります。

・訪問型オンライン診療について

事務局より資料に基づき、説明した。

(石井委員)

実証事業は検討会の意見を取り入れてもらい、通信環境や車両など改善していると感じる。強いて言えば、電気自動車の導入を検討してもらいたい。

患者宅の駐車場について、中山間地域は確保しやすいが、旧市域では患者宅を訪問する際に駐車場がなくて困っている。そこで、横山地区では社協や社会福祉法人が一軒一軒訪問して、空いている駐車場を80か所ほど、確保したということがある。市もこういった活動を検討してもらいたいと思う。

5. その他

・乗合タクシーの実証運行について

事務局より資料に基づき、説明した。

(関戸委員)

地域では、体調不良になって病院に行きたいと思っても予約することが大変だと

いう意見が出ている。

また、バスで行った帰りに様々な事情で予定通りの行動ができなかった時に、帰りの交通手段に不安を感じている。個人的には乗合タクシーでなく、コミュニティバスの方が利用する側としてはよいと考える。

もう一点、三ヶ木、相模湖間のバスがかなり減便となり、朝早い時間と夜遅い時間がなくなってしまい、出かけた時など、帰りの交通手段がなく皆が困っている状況である。

(青山会長)

ここで出た意見等は所管部署とも共有し、よく検討してもらいたい。

6. 閉会

以上

中山間地域医療検討会 委員出欠席名簿

(五十音順)

氏 名	選 出 団 体 等	出 欠
あおやま 青 山 なおよし 直 善	学識経験者（北里大学医学部総合診療医学 主任教授）	出席
いしい 石 井 ふゆき 冬 樹	相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
いしばし 石 橋 りょうち 了 知	藤野地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
いわき 岩 城 み の 美 野	津久井地区地域ケア会議地域づくり部会	欠席
かねこ 金 子 あ こ 亜 古	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
かねこ 金 子 まこと 惇	学識経験者（横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 准教授）	出席
くろさわ 黒 沢 しんご 慎 五	さがみはら介護支援専門員の会	出席
ささき 佐々木 ゆかり 由加里	公募委員	出席
せきど 関 戸 ひでこ ヒデ子	公募委員	出席
ど い 土 肥 なおき 直 樹	相模原市立国民健康保険診療所	出席
にしやま 西 山 やすひこ 保比古	相模原市立診療所の指定管理者	出席
はらだ 原 田 たくみ 工	相模原市医師会	出席
ふ せ 布 施 あつこ 厚 子	相模原市歯科医師会	出席
もりた 森 田 いくこ 育 子	相模原市薬剤師会	出席
もりた 森 田 りょう 亮	相模原市病院協会	出席